

福岡県におけるカキ「早秋」の果実品質特性					
<p>[要約] 福岡県におけるカキ「早秋」の収穫期は9月下旬～10月上旬で、「西村早生」より2日程度遅く、「伊豆」より2～3週間早い。果皮の着色が優れ、食味が良好な完全甘ガキである。汚損果や果頂裂果が発生しやすいが、<u>ヘタスキ</u>の発生が少なく、<u>日持ち性</u>は良い。</p>					
担当部署	園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室			連絡先	092-922-4946
対象作目	果 樹	専門項目	品種選定	成果分類	品種選定

[背景・ねらい]

本県のカキ主要早生品種である「西村早生」は不完全甘ガキで肉質が粗く、渋果の混入が問題となっている。さらに樹齢の進行に伴う樹勢の低下により、雌花の着生数が減少し収量が不安定である。また、完全甘ガキの「伊豆」は、果実品質は良好であるが、成熟期に樹上軟熟果が発生しやすく、収穫後の日持ち性も劣る。このことから、本県ではこれらの品種に代わる優良な形質を持つ早生品種が求められている。そこで、完全甘ガキ品種「早秋」の本県における果実品質特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「早秋」の開花期は、「西村早生」よりも4日遅く、「伊豆」より1～2日早い(表1)。
2. 「早秋」の収穫期は9月下旬～10月上旬で、収穫盛期が「西村早生」より2日程度遅く、「伊豆」より2～3週間程度早い(表1)。
3. 「早秋」の果実糖度は「伊豆」と同等かやや高く、果肉は「伊豆」に似て柔らかく緻密であり、食味が優れている(表2)。また、種子数が少なく食べやすい(表2)。
4. 「早秋」の果実は着色が良好であり、「伊豆」と同様に橙朱色となる(表2、図1)。
5. 「早秋」は果頂部に条紋が発生し、汚損果となりやすい。また果頂部が窪み、果頂裂果が発生しやすい(表3)。
6. 「早秋」はヘタスキの発生が少なく、日持ち日数は、13日程度と「伊豆」よりも長い(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 福岡県果樹推奨品種に補助品種として記載できる。
2. 「早秋」は生理落果がやや多いので、受粉樹の確保や人工授粉など結実管理を励行する。また、炭そ病にやや弱いので、病害防除を徹底する。

[具体的データ]



図1 「早秋」の果実外観

表1 「早秋」の開花・収穫期

園地	品種	展葉期 月.日	開花期			収穫期		
			開花始 月.日	開花盛 月.日	開花終 月.日	収穫始 月.日	収穫盛 月.日	収穫終 月.日
朝倉町	早秋	-	5.11	5.14	5.17	9.19	9.23	10.2
	伊豆	-	5.12	5.16	5.18	10.8	10.13	10.19
筑紫野市	早秋	4.3	5.16	5.19	5.22	9.27	9.30	10.8
	伊豆	4.7	5.17	5.19	5.22	10.7	10.14	10.19
	西村早生	4.1	5.12	5.15	5.17	9.21	9.28	10.3

注) 1. 朝倉町は平成10~12年、筑紫野市は平成9~12年の平均値。

表2 「早秋」の果実品質(平成12年)

収穫日	園地	品種	果重 g	果皮色	硬度 kg	糖度 %	種子数 個
9.27	朝倉町	早秋	240	6.2	3.4	15.0	1.3
10.18		伊豆	218	6.4	3.1	15.2	1.4
10.2	筑紫野市	早秋	230	6.7	3.3	15.2	2.3
10.12		伊豆	241	5.9	2.8	13.5	3.1
10.2		西村早生	189	5.3	7.3	14.0	5.4

注) 1. 果皮色は果頂部をカラーチャートで測定。

2. 硬度はマグネステラー式硬度計、糖度は屈折計で測定。

表3 「早秋」の果実障害と日持ち性(平成12年)

園地	品種	汚損 果率 %	果頂 裂果 %	へた 裂果 率 %	日持 ち性 日
朝倉町	早秋	10.6	5.6	0.6	13.2
	伊豆	4.3	0.0	7.6	8.5
筑紫野市	早秋	11.1	8.3	2.8	12.9
	伊豆	3.6	1.5	20.6	10.8
	西村早生	0.0	0.0	0.0	13.3

注) 1. 汚損果、果頂裂果、へた裂果は程度が「中」以上のものの発生率。

[その他]

研究課題名：落葉果樹の品種・系統選抜 農林水産省育成系統適応性

予算区分：国庫

研究期間：平成12年度(平成8年~継続)

研究担当者：千々和浩幸、林公彦、牛島孝策